




作業機を装着したトラクターで公道走行が可能となりました!



道路運送車両法の基準緩和によって、**一定条件を満たした状態に限り**トラクターに作業機（ロータリー・ハロー等、けん引式でないもの）を付けたままで公道を走行することが可能となりました。

次の4つのポイントをチェックしましょう!

- チェック1** 適切な運転免許証をお持ちですか?
 普通自動車免許（小型特殊免許）で運転可能なトラクターでも、**作業機の幅が1.7mを超えると大型特殊免許が必要**になります。
- チェック2** 灯火器や反射器が隠れていませんか?
 作業機を装着した際に、**方向指示器・後部反射器・車幅灯等が視認できることが必要**です。
- チェック3** トラクターの安定性に問題はないですか?
 「日本農業機械工業会」のホームページで安定性を確認できたトラクターと作業機の組み合わせが公表されています。
- チェック4** 車両幅によって必要な装備を設置していますか?
 - 作業機などを装着した状態で車幅が**1.7mを超える**場合
 トラクター機体両側にサイドミラーを装着する必要があります。
 - 作業機を装着した状態で車幅が**2.5mを超える**場合
 各種標識などを設置 + 道路管理者(国・都道府県・市町村等)の「特殊車両通行許可」を得る必要があります。(農道は不要)

●詳しくはお問い合わせください JAレーク伊吹営農企画課 ☎63-2101 または JAレーク伊吹
 JA全農しが長浜農機センター ☎78-1008  ホームページ

STOP! 農業濁水



濁水防止の6つの基本技術

- ① 田面を均平に仕上げる!
… 少ない水でも作業できます
- ② 畦からの漏水を防ぐ!
… 畦周りを点検し、補修しましょう
- ③ 入水の前に排水口の漏水対策!
… 止水板を利用しましょう
- ④ 入水は適量を計画的に!
… 地域で計画的に水管理すると効果的
- ⑤ 代かきは浅水で!
… **土が7~8割見える程度**で代かきをしましょう
- ⑥ 田植え直前に落水しない!
… 水を入れすぎないのがポイント

被膜肥料殻の流出防止

多くの被膜（緩効性）肥料はプラスチック殻で肥料成分を覆っています。水田では、肥料成分が溶出した後の被膜肥料殻が水田に浮いて、河川や琵琶湖に流れ出る可能性があります。
浅水代かきを行うほか、代かき田植え前の**強制落水は絶対に行わず**、更に風で圃場の隅に集まって浮いている殻を見つけたら網ですくうなど、被膜肥料殻が圃場から流れ出ないように注意しましょう。



目指そう、農作業事故ゼロ!!
4月1日(水)～5月31日(日)は春の農作業安全運動月間です。